



元滝



バラ園

新春特集

ズバリ！市長に聞く

～ 2013 初市民対談～



須田 今年はデスティネーションキャンペーンがあり、来年は国民文化祭が開催されます。たくさんの方々が観光客がいらつしやると思います。観光事業についてはどのようにお考えですか。

市長 今年のデスティネーションキャンペーン、来年の国民文化祭など、こうした催しを通してリピーターを増やしていきたいと思っています。それには、受け入れる私たち市民が、心のこもったおもてなしが出来るよう、努力することにつぎるのではないのでしょうか。

須田 今までの旅行は団体旅行が主でしたが、今は、個人や家族、あるいはグループ単位といったこじんまりとした旅行が多くなっています。鳥海山を見るとか物見遊山的な観光でなく、「ここに行つて、あれを食べよう」「あそこに行けば地元の人と交流ができて、色んな体験ができる」など癒しの旅を求める形に変わってきています。市内には大きいホテルはありませんが、小さい旅館を含めると相当の数があります。小さくても、古くても、清掃が行き届き、設備も古くてもちゃんと機能する。自慢の料

理を出す。地元の歴史や文化など自分たちが誇っていることをお話しする。そういった基本にもう一度立ち戻るような態勢に取り組みたい。また今、旅行会社と契約している市内のホテル・旅館はわずかです。宿泊施設全体の窓口を一本化しながら、商品開発や観光商品の提供、宿泊予約などを完結する仕組みを検討していきたいと思っています。



もう1つは、情報の発信です。市単独でなく、県境を越え鶴岡、酒田、遊佐、由利本荘市まで連携し情報発信していく。ひとつの形として、北前船寄港地フォーラムがあります。そのほかにも、新潟からにかほ市までがキラキラ羽越観光圏の区域になっています。こうしたことも利用しながら、情報発信をもっと

やっていかなければいけないと思います。また、風車のご縁で大手外食産業ワタミと生活クラブの方々も旅行でにかほ市に来てもらっています。7月には生活クラブの皆さんが21名。11月にはワタミの社員研修旅行で36名の方々が訪れました。今年も継続して訪れる予定ですので、情報発信も含め、この方々にも協力してもらい、市のPRをしていきたいと思っています。

須田 にかほ市は、ほかの県からの期待は結構あると思います。実際に県外の友人などから、いい所だから行ってみたいと言われます。住んでいる私たち市民よりも、価値やいい所を知っていたりします。市民がもっと自信を持ってほしい。そうすると、ホテルや商品、サービスなどが更に良くなるのではないかと感じています。もったいないと思います。

市長 にかほ市には商品開発する素材はいっぱいあります。観光協会を中心に、各団体と連携して、体験型メニューをもっと作っていききたいと考えています。

は0・7です。今度、ぜひ見に行ってください。ピアノのコンサートなどが行われます。

須田 ぜひ行きたいです。では最後に、平成25年の抱負をお聞かせください。

市長 いずれにしても、厳しい社会情勢、経済情勢が続きます。それぞれが持つ力を十分発揮しながら、この苦難を乗り越えて、活力のあるにかほ市の再生に向けて、取り組んでいかなければならないと思います。そうした意味では、迎えた新しい年はその足掛かりとなるような、1年にしたいものと思っています。また、先般行われた衆議院議員の総選挙で、国の政権政党が変わりましたが、新政権においては、デフレの克服と円高対策を強力に実施して、日本経済の再生に積極的に取り組みされる事を期待しています。

須田 これでインタビューを終了したいと思います。市長に直接お話を伺う機会はありませんので、貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。

須田 定例市議会のない月に開催される市長面会日では、実際にどのような声を聴いていらつしやるのか関心があります。

市長 最初は、市民の皆さんも堅苦しく感じていたと思います。そのため、昨年4月1日号の広報では、「コーヒーでも飲みながら、思っていることをお話しください」という形で掲載しました。21年度から始まって、これまで16件の面会がありました。

人工内耳装着の現状についてお聞きしたときのことです。何年かに1度、入れ替えや電池の交換が必要で、結構お金がかかることでしたので、その面会后、すぐ人工内耳に関する助成制度を作りました。

建設労働者の仕事を確保してほしいという面会もありました。指名登録しなくても発注できる小規模修繕などの上限を、50万円から130万円に上げました。また、24年度で3年目になる住宅リフォーム事業があります。だいたい年間平均して8億円くらいの仕事が出ています。25年度についても県に継続をお

願いする要望書を出しています。重度の障害児に対して、もう少しのびのびと生活できるように施設をつくってほしい、できないかという声もありました。それについては、今後の課題だと思っています。

子どもの屋内の遊び場を造ってほしいといったものもありました。子ども科学館にある子どもの遊べる場所が他の地区にもほしいといったことでありましたが、象潟構造改善センターに、読み聞かせできる部屋があることや、象潟公民館を改修し、そこに読み聞かせできる部屋を造ったことなどをお話しました。

象潟公会堂の存続の要望もありました。いま改修工事が終わりましたが、それまでは、耐震化率が今の基準で0・2しかありませんでした。耐震化率を1にしたかったので、1以上にすることを、今の建物の様相を全部変えないとできません。今回の改修では、舞台の前に壁を造りました。舞台は大きくなりましたが窓は2カ所潰しました。改修後の耐震化率

金浦漁港

